

「せよ」と「してはならない」

2011年12月3日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

十戒（出エジプト記 20, 申命記 5）の内 9 つが「してはならない」という言葉を基盤としています。

- 他に神々があってはならない
- 偶像を拝んではならない
- 神の御名をみだりに唱えてはならない
- 七日目に働いてはならない
- 殺してはならない
- 姦淫を犯してはならない
- 盗んではならない
- 偽証してはならない
- 他人の物を欲しがってはならない

唯一薦めを基盤としている戒めは、「両親を敬え」です。この戒めには永く祝福された人生の約束が含まれています。「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする。」という約束です。- エペソ 6:2-3.

戒めは罰によって執行され、行動を修正させることができますが、個人の性格やアイデンティティーを変化させることができません。戒めには目的がありますが、それは限られたものであり、完全な心の変化という最終目的には到達しません。禁止されていることを「しない」ことによって、その後何を行うのでしょうか。

聖書が命じていることは、私たちは「神の似姿」として作られていることで（創世記 1:26）、それは律法が与えられる前に成されているのです。根本となる問題は、あなた方が何をするか、ではなく、あなた方が何者であるか、ということです。肯定的な心の変化は約束から来ます。この約束を信じなければなりません。神の約束はメシア・イエシュアの「福音」へと解放してくれるものなのです。

II コリント 1:19-20

私たち、すなわち、私とシルワノとテモテとが、あなたがたに宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは、「しかり。」と同時に「否。」であるような方ではありません。この方には「しかり。」だけがあります。神の約束はことごとく、この方において「しかり。」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン。」と言い、神に栄光を帰するのです。

法の本質は「してはならない(否)」です。約束の本質は「せよ(しかり)」です。私たちは、自分の「し

かり」が「しかり」であり、「否」が「否」でなければならないことを確認しなければなりません（ヤコブ 5:12）。法は私たちにいつ「否」と言うのかを教えてください。福音は私たちにいつ「しかり」と言うのかを教えてください。私たちは罪やサタンに対し「否」と言い、イエシュアの恵の約束に「しかり」と言うのです。

聖地に飛来する渡り鳥

無数の鳥が毎年冬にヨーロッパからアフリカへ南に向かって渡り、毎年夏に北に向かって渡ります。地図を簡単に見てみると分かるように、このルートのもっとも短い陸の橋は、イスラエルを通るルートなのです。今月、驚くべき 5 億羽の鳥が渡りを行うルート上で、イスラエルで羽を休めます。これには 280 種の鳥が含まれます。

彼らはヨルダン溪谷を南北に貫くシリア・アフリカ地溝を通ります。彼らはアラバ溪谷にあるネゲブ砂漠にある水のあるくぼみやオアシスで群れを成してやってきます。この現象は、イスラエルの野生動物愛好家たちによって「秋の渡りのお祭り」として楽しまれています。

イランと戦争か

一ヶ月前、国際原子力機関(IAEA)は、イランが核兵器開発の最終段階にあるという最終的な報告書を公表しました。イスラエル国内で、イスラエルがイランと戦争するのか、否か、という議論が行われました。

二週間前、テヘラン郊外にある核兵器工場で謎の爆発がありました。今週イスファハン近辺にある核兵器工場で別の爆発があったという報告がありました。これらは果たして事故なのでしょう。イスラエルの諜報活動の結果なのでしょう。西洋諸国からのものなのでしょう。イラン自身の反体制派からのものなのでしょう。現時点において決定的な証拠はありません。イスラエル当局は沈黙しています。

今週、イラン革命防衛隊はテヘランにある英国大使館の襲撃を主導しました（それはカーター政権の終わりの時にあった米国大使館襲撃を思わせるもので、それが次の大統領選でレーガン選出に傾かせるものとなりました）。今週群衆が大使館を襲撃し、イスラエル、米国、そして英国旗に火をかけました。

イスラエルのニュース解説者は、大使館の選挙は、イラン中央銀行に対するイギリスの制裁に対するものだろうと述べています。この制裁はとりわけイラン経済に打撃を与えるものなのです。イランに対する制裁の拡大はイランの反応を激化させるのです。「聖域化」された制裁は、イランの石油製

品へのボイコットとなるでしょう。このような制裁はイラン経済に大打撃をもたらすでしょうが、同様に世界経済をも麻痺させる可能性もあります。

現代の戦争は従来のもものよりも遙かに複雑化しています。それにはいくつかの側面があります。

1. **軍事的** - 陸上、島、海上の軍事、それには高度なミサイルや兵器が含まれる。
2. **情報** - 外交、報道、教育、プロパガンダ。イスラエルでは「ハスバラ」と呼ぶもの。
3. **諜報活動** - 秘密おとり捜査、諜報、協力者。
4. **金融** - ボイコット、融資、制裁、支援。
5. **人工頭脳** - 最新の形式。コンピュータ、技術、ウィルス、機能停止。

そして、もう一つの側面を忘れてはなりません。それは霊的闘い、すなわち御使いの活動を促す祈り、人生を変える福音を伝えること、聖徒たちの中の和解、サタンの力の分裂(ルカ 11:17)です。

エジプトの選挙

エディ・サントロ(抜粋)

最初のエジプト選挙の結果、イスラム兄弟団が投票の 40%を取り、さらに超保守派の「サラフィス」が 25%を取りました。これらの数字が示すのは、新しく選出された国会議員の 65%はイスラムの党を代表するのです。

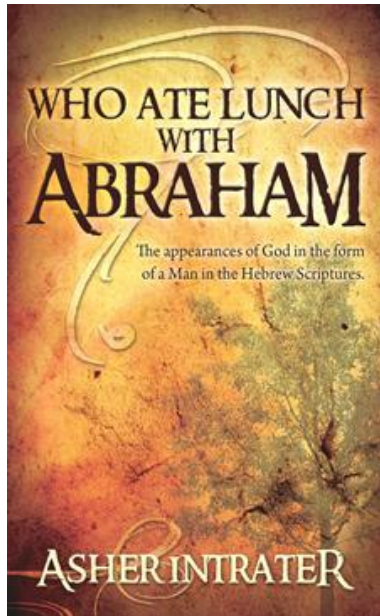
たった 6 ヶ月でイスラム政府がチュニジアとモロッコに建てられ、そしてリビアがすぐに続くでしょう。シリア政府は崩壊の瀬戸際に立たされており、今や 8 千万人の国民がいるエジプトはイスラム過激派の集団の元に支配される危機を迎えています。

イスラム民主主義は「一人の人、一票、一回」と定義されることができます。イスラム法はイスラム信仰と切り離された世俗的な政府の存在を許しません。聖職者が最高権威者なのです。イスラム宗教法(シャリア)が教育、裁判所、就職、婚姻関係、服装、娯楽、そして他のすべての生活を支配するでしょう。

イスラエルや西洋世界に対するこれらの出来事は、計り知れない悪影響を及ぼします。エジプトや中東全域のクリスチャンたちはすでにイスラムの圧力による迫害をすでに経験しており、さらに暗い時代に直面しているのです。

ハヌカまたはクリスマスの贈り物として

アシェルの新しい本を贈ることを検討してはいかがでしょうか。(現在英語のみで出版されていますが。)



「誰がアブラハムと食事したのか」は、律法書や預言者の書、そして黙示録からイエシュアが主の御使いとしての姿を取ったことを分析するものです。この本はメシアであるイエシュアの永遠の特性と聖書全体を通して徐々に啓示されていくことに関し、あなたに靈感を与え、あなたの理解に問いかけるものです。

この本の主題は長年にわたってヘブライ語の文書を研究してきただけでなく、イスラエルにいる正統派ユダヤ人に福音を伝える現場での経験に基づいています。(もちろん多くの祈りや執り成しがあったことは言うまでもありませんが)。

どうか見逃さないで下さい。どうか注文し、友人にも送って下さい。注文される方は[こちらをクリック](#)して下さい。(本は英文であり、注文も全英文です。)

出版の初期に特別な割引を用意しております。1度の注文でまとめて購入される場合、10冊で10%引き、20冊で20%引き、30冊で30%引きとしております。このまとめてご注文をされる場合、[こちら](#)にメールを送って下さい。(英文)